

日時：令和4年12月22日 15時から17時

場所：安芸高田市役所第2庁舎2階 応接室

出席者：上水流委員長、佐田尾委員（オンライン）、牛来委員（オンライン）、本多委員、福岡委員、久保委員、中間委員、永井委員

事務局：高下課長、旭

事務局

本日お忙しい中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。
では、初めに、上水流委員長、ご挨拶をお願いします。

上水流委員長

皆様、今はまだそこまで雪が降ってないですが、今晚から結構雪が降るということでその話で盛り上がっております。高校と地域の連携に関しましては、大詰めに入ってきたかなというところで、より高校に学生が集まり、または学生にとって魅力的になるよう何ができるか、詰めていきたいと思っております。本日も忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

事務局

はい、ありがとうございます。
今日の会議は、約2時間、17時までに終わる形で進めたいと思っています。

資料の確認

会議次第、資料1、資料2

これからの議事は委員長に進行をお願いします。

上水流委員長

初めに、高校会議の中で出た市の検討事項について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

- ・資料1は、10月の戦略会議の中で出た検討事項を、大きくブロックごとに分けて整理をしたもの
- ・左側の「項目」欄に意見を出していただいたものを掲載
- ・「検討する部署」がイメージできるものについてはその次に掲載
- ・その「方策」というところを、右側に掲載している
- 新たに仕組みを導入する必要があるもの
- ①公営塾の設置
 - ・どういう項目で議論がなされたかという内容が下に続く
- ②下宿先の確保
 - ・吉田高校・向原高校も、年に1人ぐらいいは遠方から来たいという人がいる
 - ・現在は積極的に運用できる形になっていないので、受入の仕組みが作れば、呼んでくれるよう

な形にできるんじゃないかという意見があった

○③留学生の受け入れ

- ・これは外国の方との交流に関わる支援にも繋がるという意見
- ・一般の留学生との交流、農業に関わることで技能実習生との簡単な作業を一緒にするというアイデアが出された

○④英語塾の開催

- ・学校の特徴として出せないかという意見が出された
- ・向原高校の議論だったかと思う
- ・具体的にある程度の形がくれそうではないかという意見が出された

○⑤コーディネーターのような人材

- ・必要ではないかという意見
- ・高校と地域との連携活動をコーディネーターする人材
- ・高校の先生たちと地域の間に立てる人材がいてはという話があった

●生徒や家庭に補助するもの

○⑥検定試験の費用の補助

○⑦海外の交流事業の促進の渡航費用の補助

○⑧修学旅行

- ・費用の負担を軽減するという面で、修学旅行も行けない生徒が一定数いるという意見から、補助制度の検討してみてもとの意見があった

○⑨通学費用の補助

○⑩奨学金、大学進学補助

○⑪パソコン購入費用の補助

- ・パソコンの購入費用、特に広島県内の県立高校で、それぞれ自分でパソコンを準備することになっており、進学と同時にいろいろそろえるものが多くなるので、その支援をという意見があった

○⑫下宿代などに対する一部支援

●高校の施設や取り組みを充実させるもの

○⑬教室へのモニターやプロジェクターの設置

○⑭デジタル機器を駆使したクラブ活動の新設

- ・今の時代としてどうかというアイデア

○⑮同窓生や地域有識者を招く講座

- ・積極的に開催してはという意見

○⑯サンフレッチェ広島の応援

- ・高校全体でも動きがつかれないか

●市の仕組みの工夫によって対応が検討できるもの

○⑰市民文化センター、運動公園の使用料金の免除

- ・市民文化センターや運動公園の使用料金の免除を継続してほしいという意見

○⑱バスの増便

- ・公共交通機関で通えるようもう少し何とかできないかという意見

○⑲臨時的任用職員、非常勤職員の候補者リスト

- ・臨時職員、非常勤職員探して高校も非常に苦勞しているので、例えば中学校や小学校も同様であれば、候補者リストの作成、共有をするような検討はできないかという意見

○⑳JR 芸備線の増加

○㉑市内全中学校の学校説明会の開催

○⑫小・中・高の連携、部活動連携等の推進

- ・特に中学生に、高校のことを知ってもらうであるとか、部活動の人数が少なくなっているところを、お互いにやることで、教え合う、一緒にゲームをするなどができるようにならないかという意見

- ・いただいた意見をブロックごとに集約したものを関係課に実現可能性の整理をしたものが資料2
- ・資料2の事業番号は、資料1の番号と対応させている

●早期に取り組みそうだという点

○⑮コーディネーターをするような人材

- ・活動内容、高校ではどういった活動を期待するか、高校の中での位置付け、そうした必要性や役割、人材イメージなどを、この場で議論していただけると、具体的になると思っている

○⑯サンフレッチェ広島観戦

- ・担当は商工観光課で、今年度、1回やってみて、来年度以降も続けていけたらとの前向きな意見だった

○⑰使用料金の免除

- ・これは現行の減免の制度を継続することの協議ができれば継続できること

○⑲～⑳候補者リスト、中学校説明会、小中高の連携

- ・この協議会の委員でもある永井教育長と協議をし、市教委としても課題意識として持っているので、協力してやっていけるようにと話していただいている

●1の事項に関連する事項として(2)で挙げている点

○⑮同窓生や地域有識者を招く講座

- ・先ほどのコーディネーターをする人材の導入で、仕事として事業の組み立ての中に入れて検討できればとしている

- ・それ以外の項目は、いずれも、財源、推進体制などの議論を行い、市のどの課が担当するか、市がどう協力していくかを検討してことになるとしている
- ・本日は現時点で整理したものを、来年、また今後、どのように進めていこうというふうなこと議論していただければと思っている

上水流委員長

説明を受けて、早期に取り組み始める事項、早期に取り組み始める事項に関する事項、継続的な検討が必要な事項とありましたが、最初に市からコーディネーターするような人材のイメージを膨らませていきたいとのことでした。ここから始めていきたいと思います。

コーディネーターをする人材として、役割、活動内容、持続可能な仕組みなど、ご意見をいただければと思います。

中間委員

地域の方、地域の企業と、コラボをさせていただき、いろんなプロジェクトを立ち上げて、生徒の資質・能力をつけていこうという取り組みを始めました。

その推進体制を校内で作っていくのは、本校で、当然やるべきことだし、今やらないといけないのだと思っています。ですが、教員である我々は、なんとというか、狭い世界の中において、新たな繋がりを見つけないとできないと感じています。

もっとこんなことをしたいとか、こういうふうにしてみたらいいんじゃないかっていうような、発展的なアイデアが、なかなか校内の者だけでは出てこないところがあります。

外部の方と校内の職員の間に入って、例えば校内の会議、打ち合わせに出てもらって、外部の方に

対してそういう校内の思いを、例えばつないでいただける方であるとか、そんなイメージを私はもっていました。そういった方がおられると、外部の方との連携がよりスムーズになるのかなと思っていたところです。

久保委員

コーディネーターの存在、私が吉田高校に来る前は、高校の課題としてあったとは聞いています。地域とどうやって繋がっていくのか。地域のどこと繋がっていくか、誰とつながっていくのか。探求科という少し間口の広い学科ができたところで、課題となっていたように聞いています。現実的には現在、本校のもう一つの学科、アグリビジネス科は、JAという大きな組織とリンクして、そこを頼りにさせてもらっています。

もう一つは、昨年度から、安芸高田市の政策企画課と協力体制ができていると思っています。

また、道の駅の存在も大きいです。そのコーディネーターっていう人を介すのではなくて、場を介す解釈もあるなど去年ぐらいから思っていて、場が地域との接点であったり、地域のコーディネーターの役割を果たしたりする部分もあるんじゃないかととらえています。

道の駅を通じて、本校の情報発信、情報収集ができており、本校では探求科が4年目の運営となってきた現状でいえば、今はご縁をいただいているところを定着していくところに入りつつあります。

人材を今すぐという思いを持ってなかったため、前回、私はこのところには、あまり触れていませんでした。

上水流委員長

わかりました。ありがとうございます。

もともとはこれ進めていく中で思っていたのは、同窓生や地域有識者を招くこともですし、公営塾の設置で、大手の塾の講師を、例えばオンラインで授業を考えていく時、交渉なども役割かなと想定をしていました。

先ほどの意見にあった、高校内では思いつかない結びつきのアイデアも出してもらって、高校の魅力アップが図れるような企画、そこをつなぐっていうことも、コーディネーターの人材の仕事かなと、私自身は思っています。

高校の先生が忙しくていろんな形で授業され、負担も多いので、企画から人をつなぐような人材がいた方がいいのではというのが、私のイメージです。

高校に1人というより、市の職員、市に所属している方が、二つの高校に関与して、とりまわしを考えるとというのが今の私の一つのイメージです。

活動費用自体であったり、その人の給与であったりをどこから持ってくるのかということもあって、前回会議で国に申請して、補助をもらいながらという話もあったと思うんですけど、そういう形で、基本的には市の方で雇用する形を考えられたらいいのかなと思います。

問題は、有識者を招く講座とか、英語塾を実施する場合は、市からの補助のあり方もあわせての検討になるかもしれませんが、高校が持っている予算の中で実施していくのかなと思っています。

講座をやるにしても、全額市からというよりは、高校の中で予算をどこかからもらってくる、国や県の教育委員会からもらってくるという中で実施するというイメージをしています。

今度は、市の人、職員みたいな方が学校に来たときに、きちんと役割と立場をつけて、学校の先生方も正しく理解をし、会議の中にも出ていくし、必要に応じては、高校生と議論をして、高校生のニーズを拾っていくこともやらなければならないのかと思います。

今、学校は外部の人材が入ることに対して敏感なので、その辺の立場づけもしっかりしてあげるっていうことが必要なんじゃないかなっていうのが私もちよっと今思っているところの具体的なイメージです。

久保委員

高校も、私も含め職員も、市役所の中に入ることはあまりないし、市の組織構造とかもあまり理解してないところがあります。市の誰かとテーマで繋がりたいとかあると思うのですが、その際にまず、学校は教育委員会にかけてしまう可能性があると思います。

そうすると、うちじゃわかりませんねっていう話になり、回り回って、政策企画課にたどり着くということが何件かあったのではと思います。

両校の認識として、学校と地域が繋がりたいのであれば、窓口を定め、お互いを意識していれば一つはクリアできるのかなと思います。

市の方もいろんな組織会議があろうと思いますので、一次的には、政策企画課に相談をするって言ったところで、ワンストップのフォーメーションっていうか、関係性を作ってもらっていただいているのではないかなと思います。

中間委員

校内にもコーディネーター役の教員を置いております。本来は、その職員が学校と地域の間を取り持って、お互い連携して機能する、させていかせないといけないんですけど、現実的に十分機能していないところがあります。

人を知らないのもあるのですが、今、言われたように、何か困ったらここみたいなところがあれば、動きやすくなるのかなというふうにも、ちょっと今感じました。

猪掛委員

委員長が言われたように、我々もこのコーディネーターをする人材というのは市の立場で、動ける、間を取り持っていく人というイメージは持っています。

先ほど校長先生からもあったように、直接学校との行き来もあるんですけども、学校の担当の職員、教員の方としっかりつなげていくのが一番理想なのかなというふうにも、聞かせていただきました。

実際今こういう会議も持ちながら、我々のところと、高校も、大分、話をしやすくなってきていると思っています。

いろんな話をすればいろんな情報も交換ができるので、今後によっては、教育委員会の関わりのものであると思いますけども、それ以外のこと、全般的には政策企画課がいろんな相談を受けながら、各担当へ繋いでいくという形でいいのかなと思います。

上水流委員長

政策企画課の中にコーディネーターの方を配置する、今の政策企画課の中に、この業務をオンできるのかっていう問題があると思います。

実際のところ余力がなかなか厳しいのかなというのが、私の正直な思いなんですけど、窓口として久保委員がおっしゃったように、政策企画課へ電話をすることがあるのかもしれませんが、政策企画課にも、担当者がコーディネートしていて、国の補助金などを得てそういうような人材がいることによって、フリーな立場が動きやすい形でやればいいんじゃないか。

政策企画課にも連携しているし、市の状況も分かっているので、うまくつなげていただける人が入った方がいいんじゃないかなっていうのを思っています。

高校も行政にも、結果的に負担が増えると思うので、そういうコーディネーターを雇えるといいのではないのかっていうのが、私の考え方です。

市役所に基本的に勤務されており、高校にも自由に来て、高校生と話をしていくようなイメージをしています。

言われたことをやるというよりは、アイデアをその人自身も持っていて、例えば面白い人材がいるからこんな授業をしてもらおうのはどうだろうかとか、高校生がこんなこと考えているのでこれを

実現する場所として、こういう地域と繋がればもっとできるんじゃないですかっというような、能動的に行動してくれるような方っというようなイメージを持っています。

ちょっとそういう方向で、人材を確保できるのかっということを進めてはどうかと思います。

久保委員・中間委員

非常にありがたいと思います。

猪掛委員

今、そういう思いでちょっと来年度の予算組みもしようとしています。そのためにも、具体的な動きのイメージがあればあるほど、説明しやすくなるということもあって、いろいろご意見が聞きたいなと思います。

本多委員

コーディネートをする人材をピンポイントで置くことも非常に重要だと思うんですけども、地域にはいろんな組織がありますので、そういったところを、市役所を介した状況で、僕らだったら、JA関係に所属している農耕会という組織で、比較的50代から20代が安芸高田市で50名ぐらいいて、多種多様な農業のジャンルの話が聞けたり、関わりを持ったりすることが可能です。

プラス商工会では地元根差した企業さん、比較的古くからある会社が地元にありますし、青年部で若い世代の話も聞くことができます。

大きい企業の関連企業、例えばマツダの関連会社であるとか、そういった関係部署と関わることによって、いろんな情報を集めやすいのではないかなと思っています。

そういったところの関わりっというのも、非常に重要なポイントだと思いますし、その地域に根ざしたというのも一つのポイントかなと思いますし、そういった活用の仕方もあるんじゃないかなと思います。

上水流委員長

今おっしゃっていただいたように、そういう情報が一括してコーディネーターをもとに集まって、うまく高校と市と調整しながら結んでいくっというような、すごく重要な役割を担う業務なのかなと思っています。

この委員の皆さんが持っていらっしゃるネットワークだとか組織っいうことをどんどん紹介していただいて、こんな場所があるよっいうことを、情報提供していただくことが大事だと思います。

中間委員

同窓会の方にもいろいろと情報いただいでいて、同窓会の、誰かにお願いすれば、つないでいただけることもあります。同窓会もこのコーディネート役っいうか、つなぎの役みたいなのを担っいただいでいるという、実態もあります。

上水流委員長

活動内容は、高校側のニーズを拾って、多様な企画、講座、イベントの企画をすることであったり、高校生が地域活動をする場所のセッティングだったり、それから地域から高校、高校生にやって欲しいことがあると思うんですが、それを整理した上で、高校が何か地域にできることを結びつけること、形にできるような業務っことが出てくるのかなっというふうには思っています。

事務局

高校の授業の中で、数学とか英語とかそういう学科以外で、こういうコーディネーター役が必要な

時間ってどのぐらいあるものでしょうか。

久保委員

大枠でいうと、総合的な探求の時間があって、地域の中で、自分のテーマを探し出しながらっていう活動があるので、きっかけとしてその方に話をし、そこに行ってみるとか、ということはあると思いますが、つきっきりになるわけではないかと思っています。

4月に何回かの方向性のところでファシリテートしてもらうのが一つあると思います。

それから、進路指導に関わって、地域の企業見学とかに関しても、安芸高田市の方からも補助いただいてやってもらっていますが、そのあたりもコーディネーターの一つですね。

企業見学に行ったときに、情報を得るとかその橋渡しの調整をもらう

事務局

市がこのプロジェクトのコーディネートできる人材として関わっていくこと、市役所の仕事の中でやるのはなかなか難しいところがあると思っていました。

上水流委員長にも言っていたように、市役所の中にそういう人を入れ、コーディネートするのが仕事というお互いの認識のもとにやっていく。

今の状態として、もっといろんなことをやりたいのだけど、なかなか時間がないのが現状でもあると思っています。

前向きに進めていこうとする中で、コーディネーターが関わる時に、例えば1年間通してのゴールに向けて組み立てていくところから、学校の先生方と一緒に考えていけるような立ち位置、役割をどのように具体化していけるのであろうか。

キャリア教育も、自分が先輩としての形でどういう人のお話を聞かせたらいいとか、それ全体の構成から、かかわれるような形であると良いと思います。

どんな働き方をするコーディネーターというふうにイメージしていくかっていうのも、ある程度、両方で具体的にお聞きできていた方が、お互いいいのかなと思います。

牛耒委員

今お聞きしてる話は、コーディネーターを市役所の職員さんからっていうところで、そのコーディネートっていうのは高校と地域を結ぶっていうところが、今、大きなテーマであるのか、まず確認です。

上水流委員長

地域を結ぶっていうのもありますし、例えば、英語を何とかしましょうという話でも関わってくるかもしれません。

牛耒委員

コーディネーターの力量が、随分、事業に関わると思います。

特色づくりで英語が出ているので、テーマを絞った方がやりやすいのではないかと考えていました。

英語をテーマに絞れば、例えば、不安や海外への一歩を軽くするために、関係あるゲストを呼んできて、町の人たちと一緒にやってみるとか、ワークショップをやるにしても、英語のワークショップをやってみるとか、例えば、地域の中を外国人の人と一緒に回ってみるとか、物を買う体験企画とか、そういった何か一歩進む、なんかこういったところがあると、企画がやりやすくなるのではないかなと思います。

市の職員がやるという方向性で今お話されているのですが、情報提供として、広島には、ミニミニ外国という、女性の起業家たちがやっているのですがけれども、海外に行かなくても、その国に行った経験ができるワークショップを展開している人達もいます。活用っていうところで、何かできる

のではないかと思います。

あと英語ってということのテーマで絞れば、地域の企業さんに、外国人の実習生とかいらっしやったらそういったところとの接点とか、的が絞れるのかなと思います。

上水流委員長

はい。ありがとうございます。

今の意見に対して高校側としてどう思われたかを伺いたいと思います。

中間委員

向原高校では、海外との交流であったり、異文化の交流であったり、その中の一つで英語を勉強しましょうということで、英語塾があったらというような話を前回させていただきました。

そういったところのテーマを絞ったコーディネーター役の方がおられればその取り組みは、本当に実現にさらに一步近づくのかなあとという気はしています。

本校の現状としては、総合的な探求の時間が週1時間、全学年週1時間ずつあって、そこで生徒がテーマを決めていく。

生徒だけ教員だけではテーマがなかなか見つけれない、また、深まっていけないので、そういうテーマに関わって、テーマ決定とか、探求の過程のコーディネーターしていただける方がいらっしやればいいなということがありました。もう一つは、課外で行っているプロジェクトで、コーディネーター役がいてもらえるといいなという思いで、コーディネーターっていうのを出しました。

具体的な計画を、ちょっとまだ定めているわけではないので、ずっと間に入れていただいて何かをする、していただくっていうイメージでは確かにはないなと思います。

時間的に、じゃあどのぐらいなんだろうかと考えると、あんまり多くはないのかなあと。テーマ決めとか、そういう、相手との橋渡し役っていうところではぜひお願いしたいところがありますが、市の職員として、常にいていただくっていうのは、難しいかなと感じました。

で、そう考えた時に、今ご提案いただいた、何か英語なら英語ってというようなテーマを絞った中でのコーディネーター役ということであれば、継続的にお願いしたい、非常に学校としてはありがたいなというふうに感じたところです。

久保委員

吉田高校では、さっき申しましたように、生徒を育てていくにあたっては、やはり地域をテーマにする、地域の中から課題を見つける、地域の中にある地域の課題であったり、地域の中にある国際的な課題であったり、地域の中にある歴史的な課題であったり、いろんな地域の事象から、課題を見出して、自分の生き方につなげて追求して、未来に生きる力を育んでいこうというのが大きな教育テーマ、学習テーマとしています。

吉田高校としては、地域に関して幅広く、いろんな認識、情報を持った人がおられると、やはり間口の広い方が、相談などしやすいのかなと思います。

向原高校のように、英語で生徒を引き寄せようという、まだ案の段階かもしれませんが、安芸高田市とのリンケージの中で、安芸高田市の課題を克服することが、未来へ向けた課題の克服であるというような立ち位置にあるので、やはり、テーマにこだわった方にコーディネーター人材がおられると動きやすいかなというのが吉田高校の意見です。

上水流委員長

ありがとうございます。

今いろいろご意見出たところですが、少し私が思っているところで申し上げると、今、英語のコーディネーターというご意見に関して言うとこれは、向原高校が今から英語活動を推進するかという

議論と関わってくるのかなと思います。

今出たように英語で何かできる人材を採用して、その人自身が英語で何かする、外をつなげるってことも含めて、そういう人を取るのか、何か考えないといけないと思っています。

それをどうするかって今から考えないといけないことだと思っています。

同時に、出てきたもう一つの課題は、吉田高校の事例に引っ張られてきたところがあるかと思うのですが、地域との結びつきでどうしていくかってことも、同じようにやっていくことがありますので、そっちのコーディネーター、私の中ではイメージをしているというところがあります。

私自身も、コーディネーターが高校にずっといるとかは思っていないくて、もちろん、勤務先は市役所になると思うのですが、業務の中で、高校に行っているいろんな会議で話をしていくことと、つなぐ役割として地域に出かけなきゃいけないし、市外も含めて、必要に応じて県外に行くようなことも考えながら活動しなきゃいけないと思います。

やはりコーディネートをするというのは手間ひまがかかかりますので、そこを含めたときにどのぐらい仕事量があるのかってことだと思っています。

それはやっぱりかなりの仕事量があるというふうに私は認識していて、やっぱり1人の人が専従するっていうのが一番、両校を見る上ではいいだろうと思っているところです。

先ほど出たのは、困ったときにスポット的に関わるのではなくって、向原高校、吉田高校を、どう全体としてアトラクティブに見せるか、引きつける魅力の検討から関わって、その全体を考えながらどんなことを、やったらいいのかっていうところまで関わって欲しいことだと思っています。

便利屋的に使うということではないと思います。

だから、その方が例えば、オンラインで面白い人を紹介することもあるでしょうし、ある程度、地域のことも知らないといけないし、そういう人達を巻き込みながら、1年間、もしかしたらもっと長いタームで考えながら、関わっていける人材ってことだと思っています。

牛来委員がおっしゃっていただいたことは、向原高校に特化していった場合、吉田高校とはちょっと思いが違うのがはっきりしているので、そこは高校の意識、思いを尊重したいと思っています。

今の向原高校のねらいの中に、今、牛来委員がおっしゃったことが関わってくると思います。

そこを今度はこの後の議論にはなってくると思うんですけど、向原高校の魅力化を図っていくかっていうところで今のご意見なんかを参考にしながら進められればいいんじゃないかなと思いました。

佐田尾委員

この地域プロジェクトマネージャーなんですけども、外部登用人材だと思って聞いていましたが、認識は違ってないでしょうか。

事務局

外部人材だと思っています。

猪掛委員

身分上、市が雇用する形なり、市が委託する形なりそういうことです。

上水流委員長

続きまして、早期に取り組める事項のうち、具体的に話せるところがあれば、ご議論いただきたいと思っています。いかがでしょうか。

今、早期に取り組める取り組みは、サンフレッチェ広島観戦などがあるのですが、19、21、22は、一旦は永井教育長と2人の校長先生で、リスト化、説明会、部活動は指導の関係などの議論もあったかと思うんですけども、そのあたりを少しお話いただいても良いでしょうか。

永井委員

臨時的任用、非常勤職員の候補者リストという部分は、両校長先生と今後詰める必要があろうと思っています。

それから、21番は、今年度はちょっともう時期的に遅いかと思うんですが、まだ私案の段階ですが、来年度以降、各学校を回ってもらうのは高等学校も大変な状況が生まれてくるので、オンラインで、同じ日に両校から6中学校に対して紹介をしていただく形をとってもらえたらと思っています。回数も、2回、3回と効果的な回数を、高校の校長先生とも、また、中学校の校長とも協議を試みたいと思っています。

22番の連携については、昨日もちょっと校長会を持ちまして、この会で議論をしていただいている取組の広告や紹介をさせてもらいました。私としては、中学生から見たら、先輩がモデルとして位置づくような、吉田高校へ行ってあの先輩のような高校生活を送りたいとか、向原高校に行って先輩のような学校生活を送りたいというイメージ付けが大切だと思っています。

そのためには、打ち上げ花火的に年1回ということではなく、限られた時間内ではありつつも、通年で何かの取り組みをやってもらう方がいいんじゃないかと思っています。高等学校の校長先生方と連携をさせていただき、市教委も当然入ってすすめられたらといった話を、ちょうど昨日させていただいたところです。

上水流委員長

はいありがとうございます。

今、永井委員からおっしゃっていただいた取り組みを進めていくというところで、まずは、良いのかなと思っています。まずそこからというところよろしいでしょうか。

久保委員

22番に関しては、可能性は低くはないと思っています。

部活動にもよりますが、ただ移動にハードルがあるかと思います。高校からどっか小中へ行くといった場合に、人数がそこそこいて、それをどうやって移動して戻すかっていったところも検討しないといけません。費用と、安全保険というところがあるので、そのあたりをパッケージにして考えていただけると具体的になってくると思います。

永井委員

中国新聞でも紹介されましたが、吉田小学校が習字を教えてもらう機会を提供していただきました。

部活ばかりをイメージしていますが部活動に限らず、習字を教えてもらうといったような機会も含めて考えていけたらと思っています。

上水流委員長

この会議自体は、最終的に、いろんな中学生含めて、高校が魅力的に見えて、入学者が増えていく。

その前提として多様な議論があると思っていますので、そこを結びつけながら議論していくことが非常に重要なことだと思いました。

特色を出すっていうのも、多くの人を引きつけるような場にしていきたいってことが一番のねらいになってきますので、そこが基本かなと思いつつ、話を伺っていました。

費用の部分は、必要になるものと思いますので、そこはこれからまた、詰めていただくようなことになる部分として、教育委員会も加わっての議論かなと思っています。

20、17番は、そのまま継続できる可能性があるということで、教育委員会含めて、市役所をお願いをするということになるかと思います。

16番のサンフレッチェ広島の観戦は、見に行くこと自体はいいことです。これを中学生の進路選択

にどう結びつけるかが課題だと思っています。

サンフレッチェ広島さんとの繋がりをどんなふうに活用していくのかっていうところは、もうちょっと考えていかないといけないのかなと思います。

私がちょっと思っていたのは、吉田高校のユースの選手が、地域の子供たちにサッカーを教える、地域だけじゃなくて県内でもいいんですけども、教えるような場を作ることができれば、小学生にとって非常にいいと思います。

安芸高田市の高校に来る、サンフレッチェユースの選手がいるんだ、ユースの選手と一緒に活動ができるという魅力に繋がって、進学を考えるといったことにならないかとも思います。

同時に、サッカー好きな子どもたちを、保護者が連れてこなくてはいけないので、県立大学には健康、管理栄養士を育成する学科があるので、県大と連携して、子供たちの食の体づくりに関する講座を並行して行っても良いのではないかと思います。

県立広島大学は、安芸高田市ともサンフレッチェとも包括協定を結んでいますので、そのような活用方法もあるんじゃないかと思っていて、何かこう、サンフレッチェを見に行くのもいいんですけど、それが高校に行きたくなるような何か取り組みになれば、いいのかなと思っていますので、ここもちょっと議論ができるのかなと思っていますので、

もちろん、見に行くことはぜひ見に行っていたいただければと思います。サンフレッチェの仙田社長からもどんどん来てもらいたいと言われてるので、ありがたいなと思います。

今は早期に取り組める事項のコーディネーター以外の部分のことをお話させていただいています。他に何かこの部分でお考え、アイデアをお持ちの方がいらっしゃったら、出していただければと思います。

久保委員

サンフレッチェ広島の関係で、この夏8月に、サンフレッチェの試合が安芸高田市のスポンサーゲームであるということで、吉田高校の生徒に声をかけて、バス何台かでスタジアムまで行かせていただき、キックオフのイベントに生徒が参加させていただきました。

当日は大雨だったので実現できなかったんですけど、もともとは、ユース生は必ず試合の時には行っています。試合の準備とか手伝っているんです。本当は吉高生もちょっと早めに行って、裏方の仕事をユース生と一緒に見してもらおうということを企画していました。ユース生のこと、サッカーのこと、いろんなことに興味関心を持たせるためにちょっと仕込んでいました。

その枠をどこまで広げられるかは、仙田社長の裁量もあるのかもしれませんが、観戦するだけじゃなくていろんな繋がり方、イベントの打ち出し方はあるのかなと思います。

安芸高田市は、あそこでテントを出して、ふるさと産品を売っているということがあることも含めて、いろんな使い方ができるとしています。

上水流委員長

例えば吉田高校で作られた商品を、販売とか、食べてもらうとかってこともありますし、向原高校でも取り組まれていることを紹介することがあっても良いと思います。サンフレッチェを見に行くだけでなく、そこで何か高校生が活動できて、自分たちのアイデアを試せるような場所として使えるってことであれば、それ自体は、サンフレッチェも前向きに考えてくれるのではないかと思います。

安芸高田市と一緒に考えていって、スタジアムで中高校生がワクワクできるような体験ができるような場所として、観戦を活用できるよう考えて、また、それに必要な予算があるのであれば、また、検討していくってことだと思いました。

中間委員

観戦ではないんですけど、今年、東城高校が地元の小中高校のサッカー部を集めて、サンフレッチェの沢田さんを招いて指導していただいたり、ミニゲームやったりということをやっていました。なかなかプロの方に指導を受ける機会というのではないことだと思います。例えば吉田高校や向原高校に行って、サッカー部に入れば、年に何回かは、サンフレッチェの選手とかコーチから指導が受けられるというようなことが実現できれば特色づくりにも繋がっていくのかなというふうに思いました。

久保委員

それはすでに吉田高校は実現しています。向原高校も連携校なので参加できると思います。吉田高校のサッカー部の練習にサンフレッチェ広島のスタッフが1人来てくれています。そういう特定のコラボレーションの形もありますね。

上水流委員長

可能性があるところだと思いますので、またこれからも、サンフレッチェ広島を活用した形で高校の魅力化みたいなこともですね、これからどこかで議論ができればいいのかなというふうに思いました。

佐田尾委員

今の関連ですがサンフレッチェ広島レジーナというチームができました。このチームもこの中に織り込んでいいんじゃないかと思いました。

上水流委員長

今のアイデアは僕もいいなと思っていました。レジーナ、wリーグもありますので、女子のサッカーのプロチームも含めて考えていくことは大切だと思います。私らは11月に叡啓大学と合同でレジーナの選手を3名呼んで、講演会をしてもらいました。女子のプロサッカーを知ることが、女の子たちもサッカーについての関心も高まると思いますので、必要だろうと思いました。

続いて(3)で、継続的な検討が必要な事項というのがあります。要は財源を伴うことであるので、制度設計をしていかないといけないところだと思います。

制度設計をして予算請求するにしても、今年度とか、来年度からすぐやるのは難しいのかなと感じています。

優先的に取り組んでいった方がいいものがあれば、そこの議論を深めていけたらと思っておりませんが、終わりの時間もありますので、私の意見を申し上げていくのですが、先ほど明確に出していたのが、向原高校の英語塾というのがあったと思います。

県北で英語を勉強するなら向原みたいな道づくりができたらと思っていますが、アイデア出しや、イメージの共有などが図れていけたらと思っています。

中間委員

英語塾が出発ではなくて、外国の方との交流であったり、文化に触れる機会を設けるといったところであったり、そうした対応、体験、活動が、向原でできないかなという話になって、そのためにはやはり、学力、英語が必要だよねという話の流れだったように思っています。

例えば、英語塾、いわゆる英語のお勉強ではなくて、英語を活用していく、そういった力をつけていく、必要になってくるというところから出てきたものが、仮の名前として英語塾でした。

当然、学校の授業の中で英語はあるわけで、それはそれとして当然やるんですけども、希望者が例えば放課後に集まって、その英語を活用していく、そういったスキルを高めていくための、そう

いったものができないだろうか。

なかなか勤務時間外になると、英語の教員にお願いをするところが難しい面もあるので、外部の方に協力いただけないだろうかというところが、出てきたというところでは。

上水流委員長

ありがとうございます。さっき牛来委員が話していただいたことが、英語活用の参考になる点だと思うのですが、もう1回聞かせていただけますか。

牛来委員

ミニミニ外国というサイトを見ていただけると、参考になると思います。

女性の起業家が行っているのですが、これは英会話なんです。

私も英語塾というところに気になりながら聞いていたのですが、言うなら英語活用塾とか、英会話塾といったイメージの方が、実用的なのかなと思っています。

彼女たちが行っている取組は実際に外国に行かなくても外国が体験できるような取り組みです。イベントスペースや体育館といったところで、例えば、仮のお店みたいなものを作って、子供たちが、英語でお買い物をするまごともみたいなものなのですけどもそれを英語でやることであったり、外国人の個人と一緒にショッピングセンターに行ったり、動物園に行ったりっていうことを、もうすでにやられているところがあるので、そういったところも参考にしたらいいなと思ったところでは。一緒にクリスマス会をやったり、クッキングも行ったりされています。参考にするだけでなく、こういった外部のノウハウを持っているところを活用する、委託するというところもあるのかなと思っています。

で、英語を活用するっていうことプラス、ぜひこのコーディネート人材の方の資質のところなんですけれども、英語っていうテーマだけじゃなくて、グローバルな視点も持って欲しいと思っています。

英会話、英語を活用するところで、私は起業家なので、ベンチャー企業で海外に進出したような広島で創業したメンバーの顔ぶれが思いつくのですが、例えば、高級バックのサービスを始めたラクススの児玉さんだったりとか、創業者ではないけれどモルタルのタメヤスさんだったりとか、そういうクラスの人たちを呼んでくるような発想が出てくるような人材であつたらいいなあと思いました。

英語が学べるだけでなく、グローバル視点ということを学んで、一歩外に出られる人材の育成をぜひともと思っています。地域にいてねっていうのは本音だけれども、グローバル人材として、世界にはばたけと言って送り出してあげてもらいたいです。それはちゃんと最終的には、地域、自分が生まれた町、育った町をみんな大切に思っています。成功した人たちは、恩返しをしてくれるんですよ。それを作れるようなプログラムを展開していただきたいなっていうふうに思いました。

上水流委員長

今出たイメージも出てきているんですけども、これ、財源とかがって要求とかがってというのは、例えば、今ってことではないですよ。

事務局

今、実はまさに要求中です。いろいろ議論をお聞きする中で、こういう形に入るんだろうなと思います。

福岡委員

情報提供として、安芸高田市国際交流協会が行う、多文化共生リーダ養成講座っていうのがあります。高校生のために開催して、コーディネーターをやらせてもらっているのですが、その中の半分以上の会がオンラインでやっていて、実際に現地のベトナムとか、ウズベキスタンとか、フィリピン

ンとかというところをつないで、そこで日本語を学んでいる人たちと日本語で話すっていうのが主なコンテンツになっています。外国に出ていくことだけが、国際交流するとか、異文化を深めるっていうことではなくて、安芸高田市を含めて、自分が生活している範囲の中でいろんな異文化に出会ったり、全然違うパターンの人と出会ったりということが、自分が望まなくても、その自分の周りに起こってくるような社会なんだなと実感しています。

出会ったときに英語じゃなくても、その日本語、簡単な日本語、世界の人たちが共通言語として使うときの日本語で話しができるようなトレーニングを今やっていて、校長先生の話された趣旨を聞いて、英語がすごくハードルが高ければ、自分が使っている言語でも、グローバルな視座とか、理解にたどり着けるような、塾だったらいいなと思いますし、そういうノウハウは、交流協会の中に何かしらあるかもしれないなっていうように思いました。

あと、牛来委員のお話の中に、グローバルな視点のある人がいいっていう話があったんですけど、向原高校が、SDGsのことを積極的にやられているというところは何か引き継いで、もっと、この地域の中の課題が、どんなグローバルになって結びついていくかといった視点を開くような、自分がここにいないでも、自分が繋がっていると見えるような、講座みたいなのが、何かできるようなイメージがわいたなというふうに思いました。

上水流委員長

グローバルな視点を学ぶっていうことは必要で、それはすべて英語でなくてもいいと思うんですけども、実現に向けて考えたときに、やっぱり向原高校の中で、これを何かしっかり位置づけることが必要だと思います。

ちゃんとしたプログラムとして、正規の時間ではないとしても、放課後の時間とか、それは総合的な探求の時間でもいいのですが、プログラムとして形をつけたらいいかなとは思いました。

そのプログラムとして、英語を活用してミニミニ外国と連携するような活動があってもいいですし、グローバルな視点を学ぶ場があっても良いと思います。

高校の魅力として、向原高校が、こんなプログラムを年間かけてやりますよ、英語力もアップするし、グローバルな視点も身につけられるというような打ち出し方をした方がいいのではないのかなと思います。

もちろんコースとか、正規の授業の中でするとなると県の教育委員会で議論していかないといけないので難しいと思いますが、プログラムであることが見えてくると、そのために何が必要で、予算がどのぐらい必要でということも見えてくるのではないかと思います。

そうすると、生徒募集の時に、正規の授業は別だけど、授業が終わった後にこんなふうなものがあって、こんな講師がいて、こんな授業があって、講座を1年間とったら、こんな力が身につくよといったことを、何か出せたらいいんじゃないかと思います。

そういう意味で少しプログラムで何か考えていただけるといいのかなと思いました。

中間委員

おっしゃる通りだと思います。今、向原高校といえば、何々みたいな、そういったイメージみたいなところをとにかく作らないといけないと思います。

そこを中学生とか、外部に発信をしていこうということで、校内で協議をしているところです。確かにおっしゃるように、英語のこと、グローバルについて学ぶっていうところでいこう、という話になれば、当然プログラムが必要で、そういったものを持って中学校に訴えていかないと、それは響かないでしょうからそういったのを当然作っていく必要があると思っています。

あと、こういったこともっていうような他の案も出てはおるんですけど、それらもあわせて、プログラムというかですね、目的があって、ゴールを示しながらですね、しっかり考えていく必要がある、言われる通りだと思っています。

上水流委員長

ちょっとそういうところが、アピールできるような形になれば良いのかなと思っております。買い物ができるようなことも、外国に行ってやっていることも体験できるよってこともあるでしょうし、基本的な英語力を身につけることをやらなきゃいけないと思います。今の正規の英語教員にお願いするのは、負担が多すぎるだろうということで、この英語を教えるような方を、例えば、安芸高田市市内にも英語が堪能な方いらっしゃると思っていますので、そういう方に教えていただくとすれば、人件費も必要になってくると思いますし、委託であれば委託の費用も出てくると思いますので、そういうプログラムを考えていくことが大切なのでしょう。

他では両校の方から出てきたのが公営塾で、進学をしたい学生に対してきっちりとアピールしているということだと思っておりますが、どんな感じの、学びの場があればいいっていう感じですかね。

久保委員

公営塾があると良いなというのはいくつかの良い面があって、まず教員の働き方のところに、学校現場としては大きく繋がるがあります。

どうしても学校では補修っていうのを5時以降、7時前ぐらいにおこなうのですが、教員のそこは部活動、ボランティア的なものになります。そこは解決の一つになるだろうと思います。

また、生徒でいえば、学力向上に特化したスキルのところで、自分を伸ばしていく。可能性を広げるといって部分も出てくるかなと思います。

安芸高田市にいながら、広島市と同じ、もしくは、名古屋と同じ先生から受けられるということがあれば、安芸高田市であることのマイナスイメージを払拭できることもあると思います。

中間委員

補修は当然、校内ではやるわけですがけれども、もっと学びたいという生徒を集めて、公営塾みたいな形でできればと思ったんですが、限りある人材の中ですので、取捨選択というか、精選してやっていく必要はあるのかなと思っています。

久保委員

生徒のどの層をターゲットにするかっていうのがあって、例えば向原高校の場合は、芸備線で帰ったりする場合に、向原高校のあたりで塾を開いても残って受けるかどうかがあると思います。

吉田高校の場合は、市内の子が9割なので、集めやすいかと思いますが、現実的にそういう、難しそうなものに生徒が喰らいついてくる子がどのぐらいいるかということ、そう多くはないかもしれない。

例えば、今年度、1月の中旬に共通テストがあり、そこへ、30人近くが受験するけども、そのうち20数名はすでに決まっている。

言い換えれば、10人が、絶対必要としたものということなんです。

だから、どういったものをイメージして作るかによってその参加人数は限定的になってしまう。

それだから、公費ですめることはまた、ちょっとしっかり議論をしておかないといけないかなと思います。

上水流委員長

私が思っていたのは、オンラインって話をしたんですけど、今、いろんな大手のところ、オンラインでコンテンツを提供しています。

つまり受ける子にサポートした方が効率的じゃないかなとは思ったんです。

ここに公営塾を開いても、人件費なり、何なり考えて、多分それはペイしなくて、赤字が続いていくのは目に見えているので、なかなか持続化のシステムにならないだろうと思いました。

大手のそれなりにコンテンツがちゃんとあるところで、そこを受けたい子、そんなにたくさん数

にならないトータルでは50とかだと思っんですけど、この50の子が受けることに対して、きちんと学校がセレクトした上で受講したらと思っています。

受講に対しては、市が全額じゃなくて半額補助、4分の3でも補助とか、やっぱり自分のことなので自分でもお金をちょっと出す方がいいと思っています。

また、オンラインだと好きなときに受けられるので、家でも受けられるので、効率的な利用になるんじゃないのかなとは思っています。

まず、何らかの形でやっぱりここに来た高校生の進学を市がサポートしますよっていうPRをすることは、いいことだろうと私自身は思っています。

広島市内の大手の塾に行けるっていう環境とはやっぱり違うので、そこをサポートしますってことがいいのかなあというふうには思っています。

他に、下宿の確保、留学生受け入れ・外国の方との交流に係る支援、検定試験の補助、修学旅行など出ていますが、もう少しこの辺についてですね、議論ができればと思ってるんですけども、何かいろいろ思われることがあればですね、仰っていただければと思います。

その前にちょっと、事務局に率直にお尋ねしますが、海外とか、修学旅行とか、通学の補助、パソコンの費用、下宿代など、可能性はどの程度あると考えればよいものでしょうか。

事務局

今、高校の支援で、高校からの申請に基づいて、令和5年度も、本年と同じ100万円ずつの補助金を予算要求しています。

この中のいくつかのものは、高校の意志として申請していただければ、その中できるものと思っています。

それ以外でこの委員会の中で、強くここを、やっていこうというものがあった場合、令和5年度の予算に、ご意見として入れていくことはできます。

ですが、継続的な仕組みの制度と、セットで話さないと難しいと思っているので、令和6年度に向けてとか、年度の途中でとか、そういう形になるかなと思います。

また、新たな形でとなると、高校の魅力化に繋がるという視点が重要になってくると思っていますので、そういうポイントで練っていただければと思っています。

上水流委員長

100万円の予算がある中で対応する部分と、高校の魅力化っていうところに絡めて、ちゃんと予算請求ができればということだと思います。

特にこの中で、今高校生を集める上で、とても重要じゃないかっていうところがあれば、そこについてより強く要求していくってことも、委員会としてできると思うんですけども、いかがでしょうか。

久保委員

11番目のパソコンによる費用っていうのは、私が前回出しました。

そのときも申しましたけども、今は県立高校の生徒募集は向原高校も、吉田高校も非常に苦労しているところです。

来年度の、安芸高田市の中三の生徒さんが、前年度比1割減少ぐらいできていて、本当に高校にどれぐらいの新入生が入ってくれるのか。

吉田高校は、結構、瀬戸際で、その入り方によって学級が1個減るかもしれない。学級が一つ減るっていうのは、教員が2人から3人減るってことで、そうなると、生徒への活動の保障であるとか、その三種類の教員がいなくなることによって、授業が何か保証できなくなるとかっていうことは、リスクなんかもあるところです。

高校の魅力化っていう、もちろんキーワードはありながら、生徒募集をいかに推進するかっていう

ことが、現実的に今、多分両校の校長には、魅力をどう打ち出すかもあるんだけど、これも生徒がいないことには、その魅力や活力に繋がらないっていったところで、今からの時期はもうそれしか頭のないぐらいのところですよ。

1か月前ぐらいだったか中国新聞に、上下高校、要は府中市上下町の話として、入学生1人について5万円という入学支援金か補助金かという形で出そうということが決まって、それで問い合わせが増えた、見込みもちょっと、ちょっと増えたっていうことでした。

中間委員

34人が検討して、17人が第1志望であるということで、ぐっと、昨年度から言えば、ぐっと増えたということはありません。

久保委員

わかりやすい方法だなと思うんですよ。

前回話をしましたように今、生徒の言葉悪いけど奪い合っているのはすごく盛んになっていて、私立の学校の方が今は安いって話が、保護者に広まってしまっています。

現実的に結構、国からの補助金を使うことによって授業料が無償化されています。一方で、県立学校はパソコンを買わなければならない仕組みのため、各自が買って入学しなくちゃいけないっていったところで入学金の中に、そのパソコンのお金10万円がかかる。

その差額が今、あからさまに出ています。私学はもう全部用意してありますのでこの費用はかかりません。

私学の場合は、特進クラスがあり、特進クラスに入ってくれたら、1万円差し上げますっていう私立高校もあって、かなり生徒募集も皆、いろいろ苦勞はされています。

言えば、そのパソコン代のところをうめていただけ、パソコン購入費用を謳うかどうかは別にして、上下高校方法として、入学生には、これぐらいあてがわれますという、それはパソコン費用になるのか、入学のもろもろからお金になるのか、それとも定期券のお金になるか、わからないけども、そういったところって、あまり賢い方法であるとか、何か嫌なんですけど、そういったことも考えなければならないのかなという思いもあります。

中間委員

魅力化ってところからちょっと外れるんですけど、下宿先確保に、ちょっとずつめどが立ってきて、それを踏まえて、これまで行ってないような、通常、向原高校には来ないだろうなっていうような中学校も、いろいろ回らせていただきました。

他の中学校に行けば、JRが、芸備線が廃線になるかもわからないという意識がすごくあって、廃線になるかもわからない、それを使ってわざわざ向原高校に行こうとは思わないとか、公共交通機関がないからなかなか行けない、だからこそ下宿がありますよってというようなPRはしてるんですけども、そういったところで、とりわけ芸備線が、しばらくはなくなりませんよってというようなことが言えたらいいんですけど、無責任なことではちょっと言えないので、中学校にはそういった意識がすごくあるなというところで、芸備線の存続ってところが、なくならないよってということが打ち出せば嬉しいなというのはちょっと肌で感じました。

上水流委員長

今おっしゃっていただいたことって、魅力化とはならないですが、基礎体力の部分だと思っているんですよ。その基礎体力って何かそこがないとですね集まらない。

それは、18番のバスの増便と、芸備線の存続の取り組み強化ってことも関わっていると思います。ここは存続することが必要なんだとか、公共交通体系の中でバスの増便が、どうしてもやっぱり必要なんだっていうことは、やっぱりこの委員会としてもですね、きちっとお伝えしていきたいとは思っています。

ここは本当に2校の存続にとっても要の部分なんですよということを、委員会としても出していただいて、それに対しては、市としてJRにきちんとアピールしていただきたいし、それからバスの増便に関して政策企画課から、高校を失わないために考えて欲しいってことはお伝えしていきたいと思います。

先ほど出た、パソコンの費用なのか、下宿代等に係る一部支援なのか、わからないんですけども、金銭的な部分で、新入生に対して何らかアピールするようなことができないかっていうこともですね、校長先生の2人はお分かりのように、ストレート過ぎることもありますけど、それはそれでこの委員会の中できちっと受けとめる必要があるのかなと思ってます。

高校の切実な基礎体力アップのため、何かしら新しく入ってくる高校生に対して、金銭的な、名目はどういうふうにするかというのはいろいろ工夫が必要だと思うんですけど、そういうようなことも、実現するかどうかは別にして、委員会からの意見として出させていただいて、他の高校だったり、私立高校との競争力の問題もあるので、呼び集めていくってことで、それは今言ったバスの増便、芸備線の存続と同じような中身として考えていければと思いますので、いろんな形で、やっぱり現金使って競争集めてるところもあるのでその対抗手段としてというふうに思います。

久保委員

そのお金の話はもう置いて、魅力化っていうキーワードからすれば、下宿先って言うところについては、魅力化につなげられるかなって思います。

両高校に、広く、県内だけじゃなくて全国的にも呼びかけられるようにしていくためのコートとして、下宿を用意するっていうのもあるけども、その下宿っていうのも、県内でも、隣の島根でも、結構なところでやられているので、そのあとの差別化、セグメントで特色化を打ち出すためにその下宿先で、こういう体験ができますよ、こういうメニューができますよというような。そうすると、本多さんのところでは、酒米づくりから酒づくりのノウハウがもらえますとか、福岡さんのところでは、英語で農業をしますとか、そういったように、テーマ性を設けた下宿先を確保することによって、そこにも興味を持たせることで学校との活動と連携させていくことが、少し時間をかけてできて、もちろん下宿主の方がどんだけおられるとか、安全のことがあるので、そこらの仕組みづくりも必要かと思いますが。

そういうことができれば安芸高田市の魅力も発信できるし、高校の生徒募集にも繋がるのかなと思います。

上水流委員長

下宿に関して言うと、住民票を移していただくことが大事なことだだと思います。

住民票は人口がプラス1になってきますので。

魅力化ってことで言うと7番に関しても、海外交流の費用補助で留学とか、修学旅行でもいいんですけど、行程のプログラムの中に入れて込んで、生徒の能力養成をやる、海外に行くことが必要でその費用を一部補助というような組み立て方が必要だろうと思うんですね。

単純に、修学旅行の費用とか海外にお金が欲しいというよりも、この高校でやっている新しく作ったプログラムがあり、そのプログラムのために、これが必要なんだっていう議論なのかなと思っていました。

あとモニタープロジェクトの設置に関しても、今やっているところが県外の高校との交流活動とか、その高校と共同で授業を受けるといったことがあって、それがきちっと高校の魅力化に繋がるような組み立てができれば、設置する意義があるのかなと思いました。

プログラムの内容であったり、特徴ある教育機会を学生に与えることであったりということができれば、生徒が高校の魅力だと思ってくれるような話が作れば、この要求もしやすいのかなと思います。

で、今単純に、モニターくださいってこれくださいというだけではなくて、こういう学習機会を子供達に与えるために、今、持っているモニターとかプロジェクトでは駄目なんだという議論だと

思います。

14番はデジタル機器を駆使する活動ってやっぱりそれは新しい潮流だと思うんですね。

ここを選択するとき、何か中学生って自分のしたい部活があるかはすごい重要なところがあって、それができないといけないってところもありますので、新たな潮流の部活動をできるってことはやっぱり新たな高校の魅力に繋がっていくことが一つなのでこれはこれでいけるような話だと思っています。

事務局

14の部活の新設は高校として判断でできることだと思ひまして、であれば、もしそういう部活をつくろうということであれば、申請していただく100万円の補助金の中で、実現可能と考えれば、そこでできる範囲かなと思ひて仕分けをしました。

7から13のところは、やはりその高校の魅力化というところで、どうつなげていくかっていうストーリーが必要なものになるかなあと思ひているので、別にしているというところがあります。

就学支援金のところですが、もちろん吉田高校、向原高校にたくさん行ってもらいたいっていうものに繋がればそうだと思うんですが、機運というか、全市民が高校の状況を理解して、それをしっかり応援していこうというふうな形になってからでないと、なかなか難しいと思ひます。

上下高校とはまた状況も違うかもしれないところですが、委員会の中で皆さんのご意見が出たということで図らせてもらいます。

上水流委員長

例えば、ある程度の金額を、個人ではなくて、高校の方に渡す仕組みを構築しておいて、高校をアピールするときに、うちパソコン代は入れませんよと。

個人に補助となると説明が大変だと思うんですけど、高校にトータルな形で渡して、高校生にアピールしていくかっていう考え方はできると思ひます。

市の中でそういう機運が盛り上がりたらないといけないんですけども、個人に1人5万円ということに対していろいろな意見が出るのはわかりますが、高校に対してだったらまた違った説明ができるかもしれませんし、高校がそれをうまく使って生徒に説明していくという方法はあるかなと思ひます。

修学旅行にしても、どういう魅力に繋がるのかを盛り込んでいかなことには始まらないだろうというのは同感です。単純にそれだけお金くださいっていうふうにはならないだろうというのは私も思ひております。

特にこの2枚目の裏側の7から13のところは、すべて、何とかしてくださいっていうわけにはいかなだろうなと思ひていまして、これまでの議論のような形で整理をしていきたいと思ひているのですがそれでよろしいですか。

最後に委員長としてぜひ議論をお願いしたいことは、この取り組みをどうやって知っていただくかってことだと思ひていまして。

今、いろんなところが地域と結びついて、取組をやっているところがニュースになっているところがあります。私自身も、安芸高田市はこういう形でやっぱり高校の魅力化をしていて、良い教育機会を地元の生徒に学ばせたいという思いがあることを、どこかでPRしていかないといけないんじゃないかな、また、早い段階で見せていかないといけないのではないかなと思ひていまして。

例えば、英語のプログラム化していきますよってこともそうだと思うんですけど、地域コーディネーターを入れて、例えば子供のやりたいことをより実現できるような形にしていきますよってこともそうですし、何か、それを見える化しないことには、生徒募集にも繋がっていかないだろうというところもあって、ちょっとそこは何かしら工夫をしていただけるとありがたいなと思ひているところです。

事務局

例えばですけど、この委員会、3月のところに、1年経って、成果という形でこういうことに取り組みましたというのをまとめていくことになると思います。

これを、市長に伝えていく場を設定し、提言を受け取ったことをベースとして市で協議し、取組内容を、市長の定例記者会見の場で報告するという方法があると思います。

上水流委員長

ぜひ、それはお願いをしていきたいな、ちょっと予算や議会の関係もあるとは思いますが。

久保委員

前段階として、会議の様子を広報にまず載せてもらった上で、市長からの報告があったら流れもきれいなのかなと思いました。

事務局

広報に載せる際、時間がかかるという点がありまして、おそらく記者会見の方が先で、そのあと出る流れになるかもしれませんが、広報誌も市民の方に知っていただくことは大事なので、それもやろうと思いました。

佐田尾委員

これは地域プロジェクトマネージャーが配置された後のことでもでいいと思いますけど、私は、広島経済同友会に4年ぐらい所属し、常任幹事だったんですが、県北からのゲストスピーカーがよくこられていました。三次ワイナリーとかですが、安芸高田市からはあまり来られた記憶がないんですけども、マネージャーが配置された後は、そういったところで、ゲストスピーカーとして、いろんな部会がありますんで、該当する部会で話をするとか、広島市内にはほかにも異業種交流の集まりは、いろいろありますんで、ロータリークラブとか、そういうところで可能な限りスピーチをして、取組を紹介していくと、ちょっとでも話が広まる方法を考えたらいいんじゃないかなと。

上水流委員長

今年度の生徒募集にはなかなか、今すぐ結びつかないので、少なくとも来年度の活動の中で、この取り組みがちゃんと知られて、生徒が集まるところに効果が及ばせたらなと思いますので、メディアへの露出を広めていくってことは、必ずやっていかなきゃいけないことだろうと思っています。それからコーディネーターというのは、牛来委員が、取組や人材と結びつくような意見があったのですが、これ本当に重要で、そこにどれだけアイデアを持っていて、探せるかっていうことが、長い目で見るとやっぱり高校の魅力に繋がっていくところだと思いますんで、やっぱりいい人材ってのは本当に必要なんだろうなと思っています。

ここにいるメンバーも支えていただけるような、そういう方が決まったら、活動の場のサポート、PR、取組のアドバイス、人とのつなぎなどに協力していただければと思っているところです。

佐田尾委員

(2)の⑮の講座のことですね、現在、現状ではまだこれ中身が流動的だと思うんですけども、私は山間地で今一番、重大な問題の一つは、獣害ではないかと思います。これに何か特化した講座になれば、住民の関心も非常に高いし、今後さらに深刻化するのも問題だと思いますし、吉田高校にシフトした話になるかもしれませんが、県立大学にも1枚かんでもらうことになるのかもしれませんが、テーマの絞り込みをした方がいいかなと思っています。

上水流委員長

講座の中身の協議は、また改めて協議するポイントだと思います。ありがとうございます。

大事なことで、どういうふうに高校生が学びたいニーズを拾っていくかってことも大事だと思っておりますので、高校生が勉強したい、こんなことやりたいってところを刺激していかないと、高校生が何かやる気がなくなったらいけないので、高校生がやる気を引き出すってことを考えながら、今おっしゃっていただいた意見も念頭に置きながら、また、どういうことができるのかを、各高校でも考えていただく必要があるのかなと思っています。

本多委員

メディアへの露出、紹介とかっていうあたりのところで、高校それぞれに、生徒が楽しそうに活動している動画を YouTube や、ツイッターなどの SNS を活用してアピールしていくということであったりとか、この会議の様子を表に出すということに関しては、市役所の SNS を活用したりだとかってということが、とりあえず表に出すきっかけになるんじゃないのかなと思いますので、そういった活用とかもしていけばよいのだろうと思いました。

上水流委員長

我々、大学も一生懸命 SNS 使って高校生に PR をしています。

ただ最近フェイスブックは中高年しかやってないといったこともありますので、露出の方法は考えないといけないと思います。また、新聞で見えていただくことはとても市民の反響になってきますんで、その露出を広めていくことはやっていきたいと思います。

それでは今日は以上をもちましてですね終わりたいと思います。

次回の会議の中で先ほど出ました今年度の一旦の取りまとめをさせていただければと思っています。よろしくをお願いします。

今回は3月23日の午前中ってことになっていきますので、時間の確保の方をよろしくお願いいたします。

事務局

G-7の広島サミットのジュニア会議というのがあるので、参加者募集中という案内が来たので、ちょうどいい機会なので、持って参りました。

年齢の対象者が15歳から18歳までの高校生相当ということで、英語でディスカッションができる方ってところがありますが、興味のある方には良いのではと思いますので、3月27日から30日というプログラムで、個別にお申し込みをいただくようご案内いただければと思います。